

## 市長と語る タウンミーティング

テーマ「選ばれるまち、住みやすいまちにするアクションは、今がその時!!」

日時 平成25年7月20日(土) 午前10時～11時30分

会場 旭ふれあいセンター

天気 晴れ

参加者 22人

主な意見等 (◆・・・参加者 ☆・・・市長)

◆市内には遊水池がたくさんあるが、そこを他に活用するのはどうか。土地も広いし、利用価値があるのではないか。

☆イオンの横の公園や弁天の森の近くの親水公園は、人工地盤で実は下が遊水池。しかし、これまで一度も清掃をしたことがなく、堆積物がたまってきている。昨年、市沢のマンションの合間にある遊水池は露出しているため、清掃をしたが、人工地盤をつくってしまうとなかなか下の清掃ができない。整備後年数が経過すると、堆積物がたまってくるため、そのための費用がかかってくる。遊水池の有効活用というご提案だが、年中メンテナンスができるように例えばテニスコートとして活用している所も実際にあるが、予測不能な雨が降ると水没してしまうリスクも考慮したうえで、経費がかからない方法であれば有効かと思う。

◆参院選で期日前投票の立会人をやらせていただき、投票済証明書というものがあることを初めて知った。現在あるものを有効活用しよう、お金をかけずに利益を生み出そうアイデアプロジェクトとしてこの証明書を活用できないか。大きさは千円札くらいだが、裏に何も印刷されていない。ジモトのおやつマップで地元の商店が22店舗協賛しているが、証明書の裏側を使ってお店を紹介して、そこで買い物をすれば2ヶ月とか3ヶ月の間、10%割引になるとか。あるいは投票に来てくれた人は、市で発行する住民票などの証明書の手数料が200円かかっているがそれが半額になるとか。他市町村でも商店街などで有効活用されている例が多々あると聞いたので、やってみてはどうか。また若い人は投票率が低いので、30歳以下の人が優遇される方法もいいと思う。市長選に向けて取り組むのはどうか。選ばれるまちとは、他でやっていないことをお金をかけずにやることではないか。

☆商店街など市民レベルで投票率を上げる取組は各地でされている。行政として何かサービスができるかどうかは検討課題だが、選ばれるまちになるためには、投票率向上以外にも様々なことに一生懸命取り組んでいる姿が魅力を感じてもらえることにつながると思うので、ご提案いただいたように我々も柔軟な発想で頑張っていきたい。

◆鶴ヶ岡3丁目の住宅地に隣接して、1500坪の敷地に4面のフットサル場がある。100人から150人くらいの方が夜までプレイされるので、ボールを蹴る音がすごい。盛り上がり声もすごい。それで、音をセーブしてほしい、運営時間を短縮してほしいということで、住民と地権者、施設運営会社で話し合いをし、市長にもご足労いただいた。しかし、結果的には改善されていない。8時までは住民としても我慢しようという気持ちがあるが、10時までというのはいかがでしょうか。お子さんや体の悪い方もいらっしゃるのに、ゆっくり休めない。これまで再三行政にも相談してきているが、迷惑防止条例や騒音防止条例がないため、行政でも指導ができない。またフットサル場は許認可が必要な建築物ではない。警察にも相談し、注意をお願いしたが一時的な抑制しかできない。行政には開発行為等指導要綱があるかと思うが、このような所に行政がリーダーシップをとり、住民と施設運営会社との話し合いの場を持てるような決まりを入れてほしい。住民と地権者、施設運営会社が直接の場合は、弁護士が間に入っており、敵対関係のようになる。住みやすいまちづくりのためにも、住民の穏やかな生活が守られるよう行政主導で話し合いができる、タッチのできる要綱をつくってほしい。

☆今のお話は私も入らせてもらった経緯があり、従来であれば民民の話であるが、民民の話の場合、規制がなく、県に持っていったとしてもいたしかたないという状況になってしまう。市独自で何らかの制約をつけるとなると、県の基準を上回るような内容にはなかなかできないが、良好な居住環境を守っていくためにどういったことが可能か検討していきたい。再三お話をいただく中で規制する条例等がないことは課題だと思っている。また時間はかかるかもしれないが、内々にはいい方向に動いているということも聞いている。

◆地権者の方が2月にフットサル場を売却した。売却先は市内の社会福祉法人。その事務長さんに話を聞いたところ、運営会社とは4年契約だそう。しかし、これまで4年経過して、さらに4年というのは住民としてはそれほど明るい気持ちではられない。

☆場合によっては縮まるかもしれない。

◆私としては、事務長さんが4年契約をしたということを書いてくださっただけでも誠意を感じてほっとした。

☆これからも一緒にやりますから。

◆ぜひよろしく願います。

◆学校施設で就学者以外にカルチャータ的な一般住民の方が学ぶ場を提供してもらえないか。

☆学校の大規模改造を行っている中で災害時に使える場所や地域の方に使ってもらえるようなフロアをつくらうということで進めている。例えば西原小は地域の方が入れる玄関がある。子供の人数は流動的であるため、地域の方々に開放できるような施設にして、地域の方々もそこの学校に通っている子供たちと触れ合えるような学校施設に

していきたい。私は議員時代、金沢の学校を視察したことがあるが、1階の端に地域の高齢者のサロンがあった。核家族で祖父母のいない子供たちも休み時間にサロンにやってきて話をしているが、これからは学校の敷地に地域の方が花を植えたり、一緒に草むしりをしたり、地域の学校という形で育っていけばいいと思う。

◆市長は渡辺英彦さんという方をご存知ですか。全国B級ご当地グルメ富士宮やきそばの仕掛け人だが、この人の著書を見た。この人のやっていることはオヤジギャグの連続。「三者麺談」、「天下分け麺の戦い」、大吟醸にかけて地元酒「大びんじょう」。富士宮市の特産物でゴルフにかけて「鱒（マス）ターズ」、「ルイビ豚（トン）」など。これからおおい祭りや七夕まつりがあるが、祭りのチラシを見たが普通で、渡辺さんのような発信力がない。例えば七夕にかけて棚ぼた商店街大売出しなどといったことを仕掛けてみる。地元新聞に取り上げてもらえるような発信力を持たないといけないと思う。渡辺さんのやったことは、10年間で500億円の経済効果があるというが、これだけのことをやろうと思っても普通はできない。なぜできたかといえば、普通の人やらないような、みんなにこれ何だろうと思われるようなオヤジギャグをまじめにやっている。ふじみ野市もお金をかけずにまちおこしをしていけばいいと思う。他にも弁天の森を十何年も前にきれいにしたが、公園に企業名をつけて出資してもらおうとかやってみてはどうか。そうすれば少しでも市が潤うのでは。

☆私も今まで行政に取り組んできた中で同じことを繰り返してしまったり、今までやってきていないからダメということが多く、今までの当たり前を当たり前でないようにしていかないといけないと感じている。金銭的に厳しくても発想の転換が必要。ご提案いただいたようにダジャレのノリでいいと思う。七夕まつり、おおい祭りは実行委員会方式のため細かい指示はできないが、市が事務局として関わっていることから今日のようなご提案があったことはお伝えしていきたい。まちづくりの中で斬新な、あるいは奇抜な発想は大事。それがどんどん次につながっていけばいいと思う。